

日時:2024年11月20日(水)10:30~12:00

場所:国連会議場・ESCAP ホール

円卓会合(b)アジア太平洋における女性の参画とリーダーシップの強化

大崎麻子 CSW 日本代表 ご発言

発言要領 最大3分

●発言の機会をいただき感謝。

●日本は、優先政策の一つとして、女性・平和・安全保障(WPS)アジェンダを積極的に推進しており、日本国内外の女性の参画とリーダーシップを強化していきたいと考えている。

●日本は国連安保理決議第 1325 号の採択から 25 周年となる 2025 年、WPS フォーカルポイントネットワーク共同議長にノルウェーと共に就任することが決定しており、国際的な WPS の議論を牽引していく所存。とりわけ、WPS 行動計画の更なる発展及び防災と災害対応に関する知識と視点の WPS アジェンダへの更なる統合、というテーマを特に推進していきたい。首都会合は、来年2月4日から6日に東京で行われる。

●日本は昨年、2023 年から 2028 年の間の第三次 WPS 国家行動計画を策定した。自然災害・気候変動への対応に WPS の視点を取り入れていることが日本の行動計画の特徴であり、防災分野における女性の参画拡大の一層の拡大を推進している。これは、アジア・太平洋の多くの国々と同様、日本は自然災害への対応を迫られる機会が多いことによる。

●今年の元日、能登半島地震が発生し、災害関連死を含む400人以上が死亡、約13万7千戸の住宅が破損した。そのような状況下、内閣府男女共同参画局の職員が石川県庁に設置された現地対策本部へ赴き、避難所の開設・運営等に女性の視点やニーズが確実に反映されるよう、「男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」に基づく取組を要請した。

●また、地方防災会議に占める女性委員比率向上のための取組事例や、地域の女性防災リーダーの育成・活躍を後押しするノウハウや事例をとりまとめ発信するなど、防災分野の意思決定過程や災害の現場への女性の参画促進に向けた取組が続けている。

●しかしながら、確実な実行には、平常時の地域社会及び政治への女性の参画が不可欠であり、今後の課題である。日本の自然災害における経験を活かしつつ、今後国内外でより積極的に WPS を推進し、実施していく。

●ご静聴ありがとうございました。